

## 令和3年度 磐田市多文化共生社会推進協議会 委員

### 磐田市多文化共生社会推進協議会要綱(抜粋)

<p>(組織)</p> <p>第3条 協議会は、委員20人以内で組織する。</p> <p>2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。</p> <p>(1) 各種団体の代表者</p> <p>(2) 企業の代表者</p> <p>(3) 教育機関の代表者</p> <p>(4) 関係行政機関の職員</p> <p>(5) 在住外国人の代表者</p> <p>(6) その他市長が必要と認めた者</p> <p>3 委員の任期は、2年とする。ただし、その職に基づいて委嘱し、又は任命された職員の任期は、当該職にある期間とし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>4 委員は、再任することを妨げない。</p>
--

委員を依頼する方又は団体(計14人) ※印は委員変更(異動等により)

No.	3条関係	氏名	かな	所属等
1	1	玉田 文江	たまだ ふみえ	自治会連合会
2	1	藤田 允	ふじた まこと	自治会連合会
3	1	川原 利彦	かわはら としひこ	磐田国際交流協会
4	2	渡邊 カルロス	わたなべ かるろす	(株)ORJ
5	2	平野 利直	ひらの としなお	平野ビニール工業株式会社
6	2	相川 アンジェラ	あいかわ あんじえら	浜松磐田信用金庫
7	5	山田 クリスティナ	やまだ くりすていな	在住外国人(フィリピン)
8	5	田中 琢間	たなか たくもん	在住外国人(ブラジル)
9	3	青島 彰	あおしま あきら	東部小学校
10	3	小沼 裕樹	こぬま ひろき	神明中学校
11	3	江間 啓之	えま けいじ	磐田南高校(定時制) ※
12	3	松尾 真里	まつお まり	磐田市立東部幼稚園
13	5	清水 みゆき	しみず みゆき	在留外国人(ブラジル)
14	6	池上 重弘	いけがみ しげひろ	静岡文化芸術大学

役職	氏名	かな	所属等	
1	オブザーバー	勝又 千夏	かつまた ちなつ	学校教育課
2		杉田 友司	すぎた ともし	多文化交流センター
3		山田 裕美	やまだ ゆみ	多文化交流センター

役職	氏名	かな	所属等	
1		松下 享	まつした とおる	自治市民部長
2		磯部 公明	いそべ きみあき	地域づくり応援課長
3		伊藤 豪紀	いとう ひでのり	地域づくり応援課長補佐 ※
4		坪井 信	つばい しん	地域づくり応援課 地域支援・青少年育成グループ
5		大橋 あゆみ	おおはし あゆみ	地域づくり応援課 地域支援・青少年育成グループ
6		森 優也	もり ゆうや	地域づくり応援課 地域支援・青少年育成グループ

## 令和3年度 磐田市多文化共生社会推進協議会について

### 1 本協議会の目的

本協議会は磐田市多文化共生社会推進協議会要綱に基づき設置し、日本人市民と外国人市民が互いの文化的違いを認め合い対等な関係を築き、社会の構成員として共に生きていくという多文化共生の推進を目的としています。

### 2 今年度の協議会について

- ・第3次多文化共生推進プランの進捗管理を徹底し、課題解決に向けた意見交換を行います。
- ・第4次多文化共生推進プラン（令和4年度施行予定）策定の検討をします。

### 3 今年度の協議会日程（予定）

第1回（6月25日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3次多文化共生社会推進プラン進捗状況</li> <li>・第4次多文化共生推進プラン策定へ向けた意見交換（課題整理）</li> </ul>
第2回（7月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次多文化共生推進プラン策定へ向けた意見交換（現況確認及び課題解決案検討）</li> </ul>
第3回（10月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次多文化共生推進プラン策定へ向けた意見交換（関係各課職員を交えたプラン案の見直し）</li> </ul>
第4回（11月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次多文化共生推進プラン策定へ向けた意見交換（修正後プラン案の見直し）</li> </ul>
第5回（2月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次多文化共生推進プラン策定へ向けた意見交換（外国人市民向けヒアリング結果を基にした最終確認）</li> </ul>

### 4 委員の改選

- ・令和3年7月15日で、現委員の皆様の任期満了となります。

プラン策定に向け意見交換して下さった皆様には、可能な限り委員を継続していただければと思います。

- ・次期委員任期 令和3年7月16日～令和5年3月31日

## 第4次多文化共生社会推進プラン策定スケジュール（案）

月	会議	事務局
4・5月	池上会長とのプラン策定スケジュールリング	
6月	第1回磐田市多文化共生社会推進協議会 ワークショップ形式による、現在の素案に基づいた現況の認識、課題の共有	意見の整理、体系図素案の作成 現体系図素案から、関連するキーワード等を市で洗い出しておく。
7月	第2回磐田市多文化共生社会推進協議会 1回目の議論内容をまとめた、体系図を提示しワークショップ形式で意見交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回の議論を基に、第4次プラン素案の作成</li> <li>・関係課ヒアリング・調整</li> </ul>
8月	第1回プラン策定委員会（庁内会議）	
9月	<b>第4次多文化共生社会推進プラン（案）作成</b>	
10月	第3回磐田市多文化共生社会推進協議会 関係各課職員を交えた、プラン案についての意見交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回の議論を基に、プラン案の修正</li> <li>・関係課ヒアリング・調整</li> </ul>
11月	第4回磐田市多文化共生社会推進協議会 修正プラン案についての意見交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回の議論を基に、プラン案の修正</li> <li>・関係課ヒアリング・調整</li> </ul>
12月	第2回プラン策定委員会（庁内会議）	策定委員会の意見を基にプラン最終案の作成
1月	<b>外国人市民向けのヒアリング予定</b>	
1月	<b>外国人学生向けのヒアリング予定（神明中・磐南高）</b>	
1月	<b>パブリックコメント</b>	
2月	第5回磐田市多文化共生社会推進協議会 プラン案最終確認	・パブコメ結果を踏まえ最終調整
3月	<b>第4次磐田市多文化共生推進プラン （令和4年度～8年度）</b>	

第3次磐田市多文化共生推進プラン 各課事業一覧

1 安心して暮らせる環境づくり

(1) 情報伝達及び相談体制の充実：外国人市民が生活していくうえで必要な情報や災害情報、住民としての義務などが、すべての外国人市民に伝わるよう努めるとともに、総合的な相談体制の整備に努めます。

具体的な施策	No.	内容、方向性など	←プラン対象年度→						取り組み主体 関係課、団体等	2019年度の取り組み計画		2019年度の取り組み結果		達成度	2020年度の取り組み計画		2020年度の取り組み結果		達成度
			201	201	201	201	201	201											
①多言語による情報提供の強化	1	ポルトガル語等の広報紙の充実	継続	→	→	→	→	地域づくり応援課	SNSを活用した啓発を行う。	フェイスブックへの掲載 ・市内187事業所に実施された多文化共生に関するアンケートに合わせポルトガル語版広報誌の配布希望調査を実施	○	SNSを活用した啓発を行う。	・日本語版広報いわたに基づき、紙媒体・電子媒体の双方に必要な情報の発信を実施した。	○					
								広報広聴・シティプロモーション課	毎月ポルトガル語版広報誌を発行する。	毎月ポルトガル語版広報誌を発行、各自治会及び市内40ヶ所の企業やお店に配布した。	○	毎月ポルトガル語版広報誌を発行する	毎月ポルトガル語版広報誌を発行、各自治会及び市内40ヶ所の企業やお店に配布した。	○					
	2	ホームページの多言語化	継続	→	→	→	→	広報広聴・シティプロモーション課	新ホームページの翻訳機能の活用を推進する。	翻訳機能を取り入れたホームページの運用を行った。	○	ウェブサイトの翻訳機能の活用を推進する	翻訳機能を取り入れたホームページの運用を行った。	○					
								地域づくり応援課	ポルトガル語版ホームページの充実	日本語版ホームページにあわせ内容の充実と必要な項目等について、随時更新を行っている。	○	分かりやすく、読みやすい広報紙を発行する	・日本語版ホームページにあわせ内容の充実と必要な項目等について、随時更新を行っている。コロナ関連情報等を迅速に発信することができた。	○					
	3	SNS等を活用した多言語による情報提供						地域づくり応援課	ポルトガル語版facebookを活用し、情報発信を行う。	フェイスブックを活用し、「防災」「福祉」「イベント」等、市内の生活に関する様々な情報をポルトガル語で発信し周知した。(令和元年12月31日時点で、約67件のアップ及びフォロワー数1,339人)	○	ポルトガル語版facebookを活用し、情報発信を行う。	・Facebookを活用した情報発信を継続、今年度動画による情報発信を実施 ・タガログ語版のFacebookアカウントを開設	○					
								こども未来課	引き続き、「いわた子育てアプリ」を活用し、外国人市民の子育て支援を行う	「いわた子育てアプリ」を活用し、外国人市民の子育て支援を行った	○	引き続き、「いわた子育てアプリ」を活用し、外国人市民の子育て支援を行う	「いわた子育てアプリ」を活用し、外国人市民の子育て支援を行った	○					
								ごみ対策課	「ごみ分別アプリ」を活用し、外国人のごみ出しを支援する	ポルトガル語・英語の分別検索に加え、7か国語のごみの出し方・分け方の表を掲載し、産業大学大学祭などで周知を行った。 なお、ベトナム語の分別検索を年度内に追加する予定	○	「ごみ分別アプリ」を活用し、外国人のごみ出しを支援する	ポルトガル語・英語・ベトナム語の分別検索に加え、7か国語のごみの出し方・分け方の表を掲載した。また、今年度作成した外国人向けごみ出しルール啓発動画を公開している。	○					
								国保年金課	制度概要についてチラシの配布。国保税のお知らせをポルトガル語版広報に掲載。外国人向けパンフレットの配布。	制度の概要について書かれたチラシ、国民健康保険6か国語、国民年金8か国語を加入時に配布/保険証裏面の注意事項を2か国語で作成し保険証裏面に貼る/国保税のお知らせをポルトガル語版広報に掲載/国保喪失後の手続きの案内をポルトガル語で作成/外国人向けパンフレットの配布を行った。	○	国民健康保険、国民年金制度概要についてチラシ及び外国人向けパンフレットの配布。国保税のお知らせをポルトガル語版広報に掲載。保険証一斉更新のお知らせでSNSを活用。	国民健康保険(7か国語)、国民年金(9か国語)の制度について案内したパンフレットを配布。 国保税のお知らせをポルトガル語版の広報に掲載。被保険者証一斉更新時に送付される被保険者証等を動画にして周知を図った(地域づくり応援課外国人情報窓口)。	○					
	4	メール配信サービスの内容充実	継続	→	→	→	→	地域づくり応援課	外国人情報窓口facebookページを活用し、情報の発信を行う。	フェイスブックを活用し、「防災」「福祉」「イベント」等、市内の生活に関する様々な情報をポルトガル語で発信し周知した。(令和元年12月31日時点で、約67件のアップ及びフォロワー数1,339人)	○	外国人情報窓口facebookページを活用し、情報の発信を行う。	・Facebookの活用併せて、ホットラインを利用して緊急情報の発信を実施	○					
								情報政策課	2018年に引き続き、運用説明会を通してポルトガル語版での情報発信における協力体制を推進する。また、いわたホットラインの利用者の増加を図るため情報を受け取る手段の拡充(SNS連携)について検討する。	ホットライン配信部署を対象に運用説明会を開催し、ポルトガル語版での情報配信について周知し、協力を仰いだ。全体の利用者数も着実に増加している。なお、SNS連携についても検討し業者からの情報収集に努めた。	○	2019年に引き続き、運用説明会を通してポルトガル語版での情報発信における協力体制を推進する。また、いわたホットライン利用者の増加や多言語配信及び配信手段の拡充を図るため、SNS連携を視野に業者からの情報収集に努める。	ホットライン配信部署を対象に運用説明会を開催し、ポルトガル語版での情報配信について周知した。全体の利用者数も着実に増加している。なお、SNS連携については、今後の運用方法を検討した結果、来年度から市民版ホットラインを広報広聴シティプロモーション課へ移管し継続して検討することとした。	○					
							(一社)国際交流協会	市内5カ所の日本語教室で、いわたホットラインの説明、登録を行う。	市内5カ所の日本語教室で、いわたホットラインの説明、登録を行った。	○	市内5カ所の日本語教室で、いわたホットラインの説明、登録を行う。	市内5カ所の日本語教室で、いわたホットラインの説明、登録を行った。	○						
	②やさしい日本語(外国人にもわかりやすい表現)の活用	5	やさしい日本語による情報提供のための体制整備					地域づくり応援課	「やさしい日本語」を用いた文書及び資料等を推進するための啓発を行う。	令和元年4月から12月までの間で外国人情報窓口へ翻訳依頼のあった課に対し、静岡県が作成した「やさしい日本語の手引き」を配布し、作成を促した。	○	「やさしい日本語」を用いた文書及び資料等を推進するための啓発を行う。	・やさしい日本語研修会に参加し、担当者のスキルアップを図った。 ・静岡県作成の「話そう、やさしい日本語」動画を、地域日本語教室の従事者向けに放送した。	○					
6		各種通知等のやさしい日本語化					地域づくり応援課	やさしい日本語を使って情報提供を行う	・多文化交流センターからfacebook活用し、やさしい日本語を使い情報発信をしている。 ・市内外国人を対象とした調査の通知文にやさしい日本語を用いた。	○	やさしい日本語を使って情報提供を行う	・多文化交流センターからfacebook活用し、やさしい日本語を使い情報発信をしている。 ・市内外国人を対象とした調査の通知文にやさしい日本語を用いた。	○						
			継続	→	→	→	→	広報広聴・シティプロモーション課	分かりやすく、読みやすい広報紙を発行する。	広報紙にフリガナを付けた。	○	分かりやすく、読みやすい広報紙を発行する	広報いわたは、やさしい日本語を使い、難しい漢字にはルビを振る対応をしている。ポルトガル語版広報いわたは、ほとんどの漢字にルビを振っている。	○					
③総合的な相談・情報提供体制の整備(多文化ソーシャルワーク)	7	外国人情報窓口の相談・情報提供体制の充実					地域づくり応援課	増加する国籍の外国人に対応するため、通訳又は翻訳の言語数を増加する。	令和元年10月からタイ語・ベトナム語の通訳を週2日(半日)配置を開始したほか、英語・タガログ語の通訳を半日から一日配置に変更した。	○	多様化する外国人市民からの相談に対応するため、国・県からの情報を積極的に入手して活用する。	・コロナ関連情報について、国・県からの多言語版情報資料を活用して、相談に応じた関係機関の案内を実施	○						
							福祉課	外国人の生活困窮相談等をはじめとした福祉に係る業務に適切に対応するため、ポルトガル語通訳を継続して配置する。中国残留邦人等の支援業務に適切に対応するため、中国語通訳を継続して配置する。	生活保護に係る専任の外国人面接相談員を嘱託職員として任用し、市内に多く居住するブラジル人ほか外国人の相談者に対する面談、訪問に適切に対応できる体制を維持した。 中国残留邦人等の置かれている特別な事情に配慮し、相談通訳を配置することにより、中国残留邦人等のニーズに応じた助言等を行い、安心して生活を送ることができるよう支援するための体制を維持した。	○	外国人の生活困窮相談等をはじめとした福祉に係る業務に適切に対応するため、ポルトガル語通訳を継続して配置する。 中国残留邦人等の支援業務に適切に対応するため、中国語通訳を継続して配置する。	生活保護に係る専任の外国人面接相談員を会計年度任用職員として任用し、市内に多く居住するブラジル人ほか外国人の相談者に対する面談、訪問に適切に対応できる体制を維持した。また、新型コロナウイルス感染症拡大により急増した生活困窮相談にも、適切に対応してきた。 中国残留邦人等の置かれている特別な事情に配慮し、相談通訳を配置することにより、中国残留邦人等のニーズに応じた助言等を行い、安心して生活を送ることができるよう支援するための体制を維持した。	○						
							こども未来課	子育て支援に係る各種業務及び相談業務において、外国人への対応を円滑に行うため、ポルトガル語及び英語通訳を継続して配置する。	通訳を必要とする外国人市民に対して、子育て給付・助成金業務、母子保健業務、幼稚園・保育園入園業務等の手続きに係る支援や情報提供や、特別な事情により配慮を要する者や子育てに関する相談業務等に対応してきた。	○	子育て支援に係る各種業務及び相談業務において、外国人への対応を円滑に行うため、ポルトガル語及び英語通訳を継続して配置する。	子育て給付・助成金業務、母子保健業務、幼稚園・保育園入園業務等の手続きに係る支援や情報提供、特別な事情により配慮を要する場合の子育てに関する相談業務等を実施した。	○						
							ひと・ほんの庭にこっと	図書館業務及び子育て支援に係る相談・講座において、外国人への対応を円滑に行うため、ポルトガル語及び英語通訳を配置する。	通訳配置を通して、図書館や子育て相談の積極的な利用に繋がっている。また、講座(多言語のおはなし会)を通して、ポルトガル語や英語に親しみやすい環境を提供できている。	○	図書館業務及び子育て支援に係る相談・講座において、外国人への対応を円滑に行うため、ポルトガル語及び英語通訳を配置する。	通訳配置を通して、図書館や子育て相談の積極的な利用に繋がっている。また、講座(多言語のおはなし会)を通して、ポルトガル語や英語に親しみやすい環境を提供できている。	○						
					医事課	外国人患者の受入れ対応・受入れ体制として、医療通訳配置、タブレット医療通訳サービスの導入(利用時間・言語の拡大)、院内文書の多言語化(英語・ポルトガル語)の充実を図る。ラグビー・ワールドカップの試合時・非試合時の対応検討。日本語教室への出前講座の実施。	医療通訳3人配置(うち1名は外国人向け医療コーディネーター)、タブレット通訳サービスの導入(5月～、英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語)24時間/365日、院内文書の多言語化(英語・ポルトガル語)、ラグビー・ワールドカップの非試合時の受入れ対応(選手4人)、出前講座(2回)、院外での外国人患者対応事例発表(2回)	○	外国人患者の受入れ対応・受入れ体制として、医療通訳者配置、タブレット医療通訳サービスの導入(利用言語の拡大、10言語→17言語)、院内文書・表示の多言語化(英語・ポルトガル語)の推進。外国人患者受入れ医療機関認証(JMIP)の更新受審。	医療通訳3人配置(うち1名は外国人向け医療コーディネーター)、医療通訳サービスの導入(利用言語の拡大、10言語→17言語)、多言語表示用デジタルサイネージの設置(3月中旬)、出前講座における新型コロナウイルス感染防止資料の提供(英語・ポルトガル語)、外国人患者受入れ医療機関認証(JMIP)の更新受審(3月29日・30日)	○								
8	多文化ソーシャルワークの周知・啓発	検討	実施	⇒	⇒	⇒	地域づくり応援課	公益財団法人静岡県国際交流協会主催の多文化ソーシャルワーカー育成研修への積極的参加。	多文化ソーシャルワーカー育成研修へ情報窓口職員が参加した。県内の外国人相談に必要な基礎的情報や外国人支援における社会保障・社会福祉の権利について学んだ。	○	公益財団法人静岡県国際交流協会主催の多文化ソーシャルワーカー育成研修への積極的参加。	・コロナウイルス感染症予防として、今年度計画されていた多文化ソーシャルワーカー育成研修への参加は控えた。次年度に向けオンライン等での参加体制を整備。	×						
		検討	実施	⇒	⇒	⇒	(一社)国際交流協会	静岡県や浜松市で開催される多文化ソーシャルワーク研修の情報を協会会員に周知し参加を促す。	静岡県や浜松市で開催される多文化ソーシャルワーク研修の情報を協会会員に周知し参加を促した。	○	静岡県や浜松市で開催される多文化ソーシャルワーク研修の情報を協会会員に周知し参加を促す。	静岡県や浜松市で開催される多文化ソーシャルワーク研修の情報を協会会員に周知し参加を促した。	○						

(2) 危機管理意識の啓発：災害の発生に備え、外国人市民の危機管理意識の向上と地域社会や関係団体と連携した支援体制づくりに努めます。

具体的施策	No.	内容、方向性など	プラン対象年度						取り組み主体 関係課、団体等	2019年度の取り組み計画	2019年度の取り組み結果	達成度	2020年度の取り組み計画	2020年度の取り組み結果	達成度
			2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度							
④防災意識の啓発	9	各種情報伝達手段及び外国人情報窓口を通じた啓発	継続	→	→	→	→	地域づくり応援課	いわたホットライン及びSNSを活用した啓発を行う。	いわたホットラインや外国人情報窓口facebookを活用し、災害時の備えを促した。	○	いわたホットライン及びSNSを活用した啓発を行う。	・外国人情報窓口Facebook及び広報誌を活用して、日本語学習に関する啓発活動を実施	○	
								危機管理課	引き続き、磐田市防災ガイドブック（5か国語版）を通じた啓発を行う。	転入外国人に対し、磐田市防災ガイドブック（5か国語版）を配布した。	○	引き続き、防災ファイル（外国語版）を通じた啓発を行う。いわたホットライン（ポルトガル語版）でJアラートの配信訓練の事前予告を実施する。	防災ファイル（外国語版）を通じた啓発を行った。いわたホットライン（ポルトガル語版）でJアラートの配信訓練の事前予告を実施した。	○	
								(一社) 国際交流協会	・市内5カ所の日本語教室で、防災講座を実施し、実践を通じて防災知識を学ぶ。 ・(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会で外国人向けに啓発活動を行う。	・市内5カ所の日本語教室で、防災講座を実施し、実践を通じて防災知識を学ぶ。 ・(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会で外国人向けに啓発活動を行う。	・市内5カ所の日本語教室で、防災講座を実施した。 ・日本語教室で、磐田消防署と連携し、救急・火事の対応をテーマに119番通報訓練、AEDの使い方、消火器使用訓練を行った。(ワークシア教室) ・日本語教室で、中東遠消防指令センターと連携し、救急をテーマに119番通報訓練を行った(豊田教室) ・(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会で、豊田ふれあいフェスタといわたインターナショナルフェア2020に出展し、外国人と日本人向けに「やさしい日本語」等の啓発活動を行った。	○	・市内4カ所の日本語教室で、防災講座を実施し、実践を通じて防災知識を学ぶ。 ・(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会で外国人向けに啓発活動を行う。	・市内4カ所の日本語教室で、それぞれ防災をテーマに学習した。 ・減災ネットワーク連絡会で、「やさしい日本語」ミニ講座を行った。 ・(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会が、協会のFacebookページから、風水害時の注意事項や、防災グッズカードのやさしい日本語版などを発信した。	○
	10	地域防災訓練への参加促進	検討	実施	⇒	⇒	⇒	地域づくり応援課	・ポルトガル語版広報及びSNSを活用した呼びかけを行う。 ・承諾を得た外国人市民の居住情報リストを自治会へ提供	・ポルトガル語版広報及びSNSを活用した呼びかけを行った。 ・承諾を得た外国人市民の居住情報リストを9月の防災訓練にあわせ提供し、防災訓練への参加を促した。	○	・ポルトガル語版広報及びSNSを活用した呼びかけを行う。 ・承諾を得た外国人市民の居住情報リストを自治会へ提供	・今年度新型コロナウイルス感染症対策により、防災訓練が中止となったため、実施できなかった。	×	
			検討	実施	⇒	⇒	⇒	(一社) 国際交流協会	・日本語教室受講者と共に地域防災訓練に参加する。 ・(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会でSNSを活用し、外国人向けに防災訓練への参加を呼び掛ける。	・日本語教室受講者、地元企業の技能実習生と共に富岡避難所運営訓練に参加した(外国人36人、日本人6人)。6グループに分かれ、自治会の方の誘導で、炊き出し、AED・三角巾の使い方、放水訓練等を体験した。後日、活動の様子をSNS、ホームページに掲載。	○	・日本語教室受講者と共に地域防災訓練に参加する。 ・(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会でSNSを活用し、外国人向けに防災訓練への参加を呼び掛ける。	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため防災訓練が中止となり、実施できなかった。	×	
	⑤災害に備えた支援体制づくり	11	多言語による支援のための関係団体との連携促進	検討	実施	⇒	⇒	⇒	地域づくり応援課	国際交流協会と連携した活動の実施。	国際交流協会と多文化交流センター及び学校教育課と年数回外国人児童生徒学習支援連絡会を開催し、情報共有をしている。	○	国際交流協会と連携した活動の実施。	・多文化交流センターと、毎月ミーティングを実施して情報共有している。 ・磐田国際交流協会と連携して、イベント開催や日本語教育体制について協議	○
								危機管理課	防災意識の向上のため、国際交流協会に水防演習への参加を依頼する。	国際交流協会を通じて、外国人に水防演習への参加を依頼し、洪水への備え等を啓発した。(13名参加)	○	引き続き、国際交流協会を通じて、防災啓発を行う。	新型コロナウイルス感染症の影響により水防演習が中止になった事により実施できなかった。	×	
								(一社) 国際交流協会	・危機管理課の要請を受け、水防演習に外国人を引率して参加する。 ・自主防災会と連携して、避難所運営訓練での多文化対応を考える。	・危機管理課の要請を受け、水防演習に外国人を引率して参加した(外国人13人、日本人3人)。簡易水防工法、炊き出し訓練を体験、土糞ごみ処理、シート張り工、河川敷に取り残された車両からのはしご車による救出訓練等を見学。 ・(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会で富岡交流センター防災宿泊訓練に参加し、外国人の視点から多文化対応を考えた。	○	・危機管理課の要請を受け、水防演習に外国人を引率して参加する。 ・自主防災会と連携して、避難所運営訓練での多文化対応を考える。	新型コロナウイルス感染症の影響により水防演習、避難所運営訓練が中止になった事により実施できなかった。	×	
12		災害時に地域で活躍できる人材発掘と育成						地域づくり応援課 (多文化交流センター)	総合防災訓練(9月)及び地域防災訓練(12月)参加啓発	外国人が中心となって組織する(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会で、地域の防災研修会等に参加して防災について学ぶ。	○	引き続き、防災訓練への参加啓発	新型コロナウイルス感染症の影響により防災訓練が中止になった事により実施できなかった。	×	
								(一社) 国際交流協会	外国人が中心となって組織する(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会で、地域の防災研修会等に参加して防災について学ぶ。	外国人が中心となって組織する(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会で、焼津市「外国人住民のための防災セミナー」及び静岡県ボランティア協会主催「静岡県内外の災害ボランティアによる救済活動のための図上訓練」に参加して防災について学んだ。	○	外国人が中心となって組織する(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会で、地域の防災研修会等に参加して防災について学ぶ。	・外国人が中心となって組織する(一社) 磐田国際交流協会多文化防災の会で、磐田市のマイ・タイムライン講座を受講して、水害時の行動について学んだ。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により静岡県の図上訓練が中止となり、学べなかった。 ・多文化防災の会のメンバーが、災害ボランティアコーディネーター連絡会の中核メンバーとして活動するようになった。	○	
13		緊急時に備えた外国人市民の居住把握	検討	実施	⇒	⇒	⇒	地域づくり応援課	転入手続き時に、災害時の情報を自治会に提供していか説明の上承諾を得る。	自治会連合会で、9月の防災訓練にあわせ、自治会へ外国人に関する情報を提供している。(外国人情報窓口では、個人情報の開示を承諾していただいた外国人の情報を自治会長に渡している。)	○	引き続き転入案内の際に、災害時の情報を自治会に提供してよいか説明のうえ承諾を得る。	・自治会連合会で、自治会へ外国人に関する情報を提供している。(外国人情報窓口では、個人情報の開示を承諾していただいた外国人の情報を自治会長に渡している。)	○	
							福祉課	避難行動要支援者システムにて管理している外国人情報を地域防災活動に活用してもらうために地域づくり応援課に提供する。	言葉の弊害に対する解決には他課との連携が必要になる。今年度も要配慮者システムにて管理している外国人情報を地域防災活動(総合防災訓練・地域防災訓練等)に活用してもらうために地域づくり応援課に提供した。	○	避難行動要支援者システムにて管理している外国人情報を地域防災活動に活用してもらうために地域づくり応援課に提供する。	コロナ禍により、地域防災活動(総合防災訓練・地域防災訓練等)を実施しなかったため、避難行動要支援者システムにて管理している外国人情報を提供しなかった。有事には地域づくり応援課へ情報提供する準備ができていない。	○		
							(一社) 国際交流協会	市内5カ所の日本語教室の学習者登録により、連絡先を把握。毎回の教室の出欠確認を通じて普段から相互に連絡がとれるように努める。	市内5カ所の日本語教室の学習者登録により、連絡先を把握。毎回の教室の出欠確認を通じて普段から相互に連絡がとれるように努めた。	○	市内4カ所の日本語教室の学習者登録により、連絡先を把握。毎回の教室の出欠確認を通じて普段から相互に連絡がとれるように努める。	市内4カ所の日本語教室の学習者登録により、連絡先を把握。毎回の教室の出欠確認を通じて普段から相互に連絡がとれるように努めた。	○		

(3) 職場環境の整備：外国人市民の定住化、永住化が進むなかで、安心して働くことができ、労働意欲の向上が図られるよう、職場環境の整備に努めます。

具体的な施策	No.	内容、方向性など	← 計画対象年度 →						取り組み主体 関係課、団体等	2019年度の取り組み計画	2019年度の取り組み結果	達成度	2020年度の取り組み計画	2020年度の取り組み結果	達成度
			2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度							
⑥外国人を雇用する 企業への啓発	14	企業訪問や商工会議所、 商工会等を通じた職場環 境の改善に関する啓発と 就労支援							産業政策課	商工会議所、商工会等を通じ各種パンフレット等を配布し、 外国人雇用主の責務について周知を図る。	厚生労働省が発行する適正化に向けたパンフレットを配布する ことで、外国人を雇用する事業主へ啓発を行った。	○	商工会議所、商工会等を通じ各種パンフレット等を配布し、外国人雇 用主の責務について周知を図る。	厚生労働省が発行する適正化に向けたパンフレットを配布することで、外国 人を雇用する事業主へ啓発を行った。	○
									産業政策課	がんばる企業応援団などで、雇用をはじめとした市への要望 を調査する。	がんばる企業応援団訪問時に配布する産業通信に「働き方改 革」の内容を記載し、周知を行った。	○	企業実態調査などで、雇用実態の把握と市への要望を調査する。	令和2年度企業実態調査のなかで、雇用状況、国籍、在留資格について商工 業等事業者アンケート調査を実施した。今後策定予定の次期産業振興計画 の参考としていく。	○
									(一社)国際交流協会	・日本語運営委員会に浜松磐田信用金庫や商工会議所及び外国 人を雇用している企業に委員として参画してもらい、就労の実態を共有し、 外国人の日本語力向上等キャリア形成につ いて協議する。 ・インターナショナルフォーラムの協賛依頼で外国人を雇用 している企業を訪問した際に、連携・協働の可能性について 意見交換を行う。 ・ヤマハ発動機ロボティクス事業部の技能実習生に対し、生 活適応支援と日本語研修を実施する。	・年3回開催の日本語運営委員会に浜松磐田信用金庫や商工 会議所及び外国人を雇用している企業に委員として出席してもら い、就労の実態を共有し、外国人の日本語力向上等キャリア形 成について協議した。 ・インターナショナルフェアの協賛依頼で外国人を雇用してい る企業を訪問した際に、連携・協働の可能性について意見交換 を行った。 ・ヤマハ発動機ロボティクス事業部の技能実習生に対し、生 活適応支援と日本語研修を実施した。	○	・日本語運営委員会に浜松磐田信用金庫や商工会議所及び外国人を雇 用している企業に委員として参画してもらい、就労の実態を共有し、 外国人の日本語力向上等キャリア形成について協議する。 ・インターナショナルフェアの協賛依頼で外国人を雇用している企業 を訪問した際に、連携・協働の可能性について意見交換を行う。 ・ヤマハ発動機ロボティクス事業部の技能実習生に対し、日本語研修を 実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、新規に 入国した技能実習生がいなかったため、生活適応支援は実施しな かった。	・年3回開催の日本語運営委員会に浜松磐田信用金庫や商工会議所及び外国 人を雇用している企業に委員として出席してもらい、就労の実態を共有し、 外国人の日本語力向上等キャリア形成について協議した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、インターナショナルフェアの 開催規模が大幅に縮小となり、企業を訪問する機会がなく、 連携・協働の可能性について意見交換を行えなかった。	○
	15	外国人雇用企業における 成功事例の紹介							経済観光課	展示会等を通じ、外国人雇用環境に配慮した企業のPR機会 を創出する。	産業振興フェアを開催し、ダイバーシティ企業のPRを支援し た。	○	ハローワークと連携した外国人相談窓口で企業と求職者のマッチング を支援する。	ハローワークと連携し、ワークピア磐田で週2回就労に関する外国人総合相 談コーナーを設置し、相談業務を行っている。	○
									経済観光課	がんばる企業応援団などで、雇用をはじめとした市への要望 を調査する。	市内事業者とベトナム産業人材との交流事業を実施し、現地企 業や人材と産業交流を行った。	○	国や県が実施する事業への参加を促すための情報発信を行う。	外国人材の採用意欲の高い市内企業に対して、ホットライン等を活用して 国や県が実施する事業への参加を促すための情報発信を行った。	○
	⑦関係機関との情報 共有と連携強化	16	商工会議所、商工会、公共 職業安定所及び労働基準監 督署等との連携							経済観光課	雇用対策連絡会議を定期開催し、雇用情勢に対応した対策を 協議する。	雇用対策連絡会議を年2回開催し、労働局が実施する外国人等 の就職支援に関する情報共有及び各市町の雇用対策事業に関す る現状報告・協議を行った。	○	雇用対策連絡会議を定期開催し、雇用情勢に対応した対策を協議す る。	ハローワーク・労働局と雇用についての雇用対策運営協議会を1回書面開催 し、今年度の取組と次年度の事業計画を確認した。
17		多文化共生に取り組む都 市との連携強化							地域づくり応援課	外国人住民施策に係る県及び市町情報交換会への参加	・静岡県地域外交局多文化共生課主催の「外国人住民施策に係る県及 び市町情報交換会(令和元年5月22日)」に参加し情報交換を行った。 ・名古屋出入国在留管理局主催の「名古屋入管管内都市間連携交流協 議会(令和2年1月31日)」に参加し情報交換を行った。	○	外国人受入環境整備に関する意見交換会に出席する。	・外国人受入環境整備交付金を活用及び活用予定の市町による、意見交換会に参加 した。多文化共生事業に関して、広域連携の可能性について協議	○
									(一社)国際交流協会	各団体や協会との連携	・(公財)静岡県国際交流協会との連携(日本語教育事業運営委員会委員、 日本語教室講師(テーマ:正社員と派遣)) ・静岡県との連携(多文化共生課①「異文化交流会と防災講座」協力、② 日本語教室視察受入れ、③「静岡県における地域日本語教育実態調査」ア ンケート協力、危機情報課「静岡県防災」多言語化翻訳協力) ・東海日本語ネットワーク(名古屋)との連携(日本語ボランティアシン ポジウムにブース出展、日本語ボランティア養成講座講師) ・フィリピンガイサ(浜松)との連携(外国人支援者対象講座の告知協 力) ・静岡県立大学との連携(日本語ボランティア養成講座講師) ・湖西国際交流協会との連携(日本語学習ボランティア養成講座講師派 遣) ・掛川市、袋井市、浜松市、湖西市との連携(いわたインターナショナル フェアへのブース出展またはパネル展示)	○	各団体や協会との連携	・(公財)静岡県国際交流協会との連携(日本語教育事業運営委員会委員、 静岡県初期日 本語教育体制構築事業への情報提供・オブザーバー参加、磐田・袋井・掛川インター ナショナルフェアへの動画提供(静岡県多文化共生総合相談センター「かめりあ」)) ・静岡県との連携(多文化共生課①磐田・袋井・掛川インターナショナルフェアへの動画 提供(つかつてみよう、やさしい日本語)、②日本語教室視察受入れ、危機情報課「静岡 県防災スローガン」募集と協定協力、教育委員会「夜間中学アンケート」協力) ・東海日本語ネットワーク(名古屋)との連携(日本語ボランティアシンポジウムで事例 発表、日本語ボランティア養成講座講師、オンライン日本語教室体験受入れ) ・フィリピンガイサ(浜松)との連携(外国人支援者対象講座の告知協力) ・静岡県立大学との連携(日本語ボランティア養成講座講師) ・掛川市、袋井市との連携(磐田・袋井・掛川インターナショナルフェアへの後援、動画 コンテンツ提供) ・袋井国際交流協会、NPO法人掛川国際交流センターとの連携(磐田・袋井・掛川インター ナショナルフェアの共同開催) ・千葉市国際交流協会との連携(日本語支援者スキルアップ研修講師) ・刈谷市国際交流協会との連携(日本語支援者スキルアップ研修講師) ・NPO法人可児市国際交流協会との連携(ブラジル人学校の支援について、可児市と可児市 にあるブラジル人施設との協力について情報収集)	○

2 多文化共生の地域づくり

(4) 相互理解の促進：日本人市民と外国人市民の相互理解を進めるための環境整備に努めます。

具体的な施策	No.	内容、方向性など	プラン対象年度						取り組み主体 関係課、団体等	2019年度の取り組み計画	2019年度の取り組み結果	達成度	2020年度の取り組み計画	2020年度の取り組み結果	達成度
			2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度							
⑧外国人市民に対する多文化共生の啓発	18	(一社) 磐田国際交流協会、多文化交流センターを通じた外国人市民が集まる場での啓発	継続	→	→	→	→	→	地域づくり応援課 (多文化交流センター)	多文化交流センターを通じ多文化共生啓発を検討する。	多文化共生推進として、やさしい日本語を使いfacebookやセンター便りで情報発信している。	○	多文化交流センターを通じ多文化共生啓発を検討する。	・多文化共生推進として、やさしい日本語を使いfacebookやセンター便りで情報発信している。	○
			継続	→	→	→	→	→	(一社) 国際交流協会	いわたインターナショナルフォーラムを通じて外国人市民に対し広く多文化共生の啓発を行う。	いわたインターナショナルフェアをららぽーと磐田で開催。ワールドステージ、世界のスポーツ、日本語スピーチ、ブース出展、雑貨・食品販売、夜間中学ドキュメンタリー上映を行い、来場した外国人市民、日本人市民に対し広く多文化共生の啓発を行った。	○	磐田・袋井・掛川インターナショナルフェアを通じて外国人市民に対し広く多文化共生の啓発を行う。	・新型コロナウイルス感染症の影響で規模は大幅に縮小されたが、磐田・袋井・掛川インターナショナルフェアをららぽーと磐田で開催し、来場の日本人市民、外国人市民に対し広く多文化共生の啓発を行った。 ・Facebookやホームページを活用し、多文化防災の会からは災害の備えについて発信、協会からも、新型コロナウイルス感染症の情報や緊急支援、定額給付金、確定申告についての情報など生活に必要な情報を発信した。 ・市内4か所の日本語教室で、随時必要な情報を伝えるとともに、LINEやメッセージなどを使い各教室で支援者と外国人とがつながるよう準備を進めた。	○
	19	外国人情報窓口を通じた啓発	継続	→	→	→	→	→	地域づくり応援課	転入オリエンテーションや個別相談の際、生活費用の計画がたてられるよう日本の税制度や教育制度、医療保険等について説明をし、状況によっては担当課に引継ぎをする。	転入オリエンテーションや個別相談の際、生活費用の計画がたてられるよう日本の税制度や教育制度、医療保険等について説明をし、状況によっては担当課に引継ぎを行った。	○	転入オリエンテーションや個別相談の際、生活費用の計画がたてられるよう日本の税制度や教育制度、医療保険等について説明をし、状況によっては担当課に引継ぎをする。	・転入オリエンテーションや個別相談の際、生活費用の計画がたてられるよう日本の税制度や教育制度、医療保険等について説明をし、状況によっては担当課に引継ぎを行った。 また、日本語学習の必要性の啓発、日本語教室の案内を実施	○
								各課	外国人の暮らしやすい環境を整備する。(ごみ対策課)	外国人向けにごみ分別ガイドブックやごみ分別カレンダーを配付している。また、市指定のごみ袋や収集券を実際に用いて説明している。(ごみ対策課)	○	外国人の暮らしやすい環境を整備する。(ごみ対策課)	外国人向けにごみ分別ガイドブックやごみ収集カレンダーを配付している。また、外国人向けごみ出しルール啓発動画(ベトナム語・ポルトガル語・タガログ語)を作成し、市ホームページやごみ分別アプリで公開しているほか、外国人情報窓口等で転入手続き時に視聴をお願いしている。	○	
								(一社) 国際交流協会	外国人情報窓口にて、日本語教室の案内啓発	外国人情報窓口を通じて日本語教室を案内し、日本語学習を啓発した。	○	外国人情報窓口にて、日本語教室の案内啓発	・磐田市が行った「はじめての日本語教室」について周知、募集等に協力した。 ・外国人情報窓口を通じて日本語教室を案内し、日本語学習を啓発した。	○	
⑨日本人市民に対する多文化共生の啓発	20	自治会連合会各支部と連携した多文化共生意識の啓発	継続	→	→	→	→	地域づくり応援課	自治会連合会と連携して、多文化共生社会の理解を促進する取り組みを行う。	外国人の人口比率の高い竜洋地区において、静岡県主催でインドネシア人を対象に「異文化交流会と防災講座」が竜洋交流センターを会場に開催されたため、地区自治会に周知し参加を促した。	○	自治会連合会と連携して、多文化共生社会の理解を促進する取り組みを行う。	・南御厨地域づくり協議会の方を、指導支援者として招き、日本語教室事業を開催	○	
			継続	→	→	→	→	(一社) 国際交流協会	各自治会からの要請に応じて、多文化共生講座を行う。	竜洋敷地自治会「地域を善くする会」にて多文化共生のまちづくりについて講話した。	○	各自治会からの要請に応じて、多文化共生講座を行う。	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、各自治会からの要請はなく実施できなかった。	×	
	21	学校、交流センター講座等での国際理解、人権に関する講座等を通じた啓発	継続	→	→	→	→	地域づくり応援課	各交流センターで多文化共生を取り入れた講座の開催	各交流センターで多文化共生講座を開催(英会話教室、タイ料理講座グリーンカレー作り)人権講座として、富岡交流センターでLGBT講座を実施	○	各交流センターで多文化共生を取り入れた講座の開催	・今年度コロナ対応によりセンター講座の実施がほとんど出来なかった。しかし、南御厨交流センターにて、外国人市民に向けた日本語教室を開催	○	
			継続	→	→	→	→	学校教育課	ポルトガル語や英語の本の読み聞かせにより、同じ本を違う言葉でふれることにより、多文化共生の啓発を行う。	多言語本の整備を進め、多文化への理解啓発の場を設けていくことができた。	○	ポルトガル語や英語の絵本の整備を進め、多言語に触れる場を増やしていくことで、多文化共生の啓発を行う。	多言語本の整備を進め、多文化への理解啓発の場を設けていくことができた。	○	
			継続	→	→	→	→	(一社) 国際交流協会	各学校、交流センターからの要請に応じて、国際理解、人権に関する講師紹介等を行う。	・豊田中学校の地域体験学習「地域探訪」で中学一年生4人を受け入れ、多文化共生事業とうについて説明した。 ・豊田南小学校キャリア教室授業に講師として招かれ、外国人スタッフのスタッフが体験談を話した。	○	各学校、交流センターからの要請に応じて、国際理解、人権に関する講師紹介等を行う。	豊田中学校2年生「職業人インタビュー」の講師として、生徒8人に対し、磐田国際交流協会についての説明と、そのスタッフ(職業人)としての経緯や思いなどについて講話を行った。	○	
⑩日本人市民と外国人市民の交流事業	22	(一社) 磐田国際交流協会及び市民団体と連携した交流イベントの開催						地域づくり応援課	・国際交流協会、自治会等と連携した交流イベントの開催 ・日本人と外国人市民が「いわたゆきまつり実行委員会」を組織し、いわたゆきまつりを開催する。	・竜洋地区敷地自治会での定住外国人との交流会(令和元年6月16日開催)の運営に磐田国際交流協会と連携し参加した。 ・日本人と外国人市民が「いわたゆきまつり実行委員会」を組織 ※雪不足により「いわたゆきまつり」は中止 ・国際交流協会が主催する「いわたインターナショナルフェア」の企画運営に実行委員として参加した。	○	・国際交流協会、自治会等と連携した交流イベントの開催	・国際交流協会が主催する「いわたインターナショナルフェア」の企画運営に実行委員として参加した。	○	
									(一社) 国際交流協会	・いわたインターナショナルフォーラムの開催 ・多文化パーベキュー交流会の開催 ・イヤーエンドパーティーの開催	・ららぽーと磐田でいわたインターナショナルフェア2020を開催した。出店やブースにより食や文化を通じた交流ができた他、ステージのダンスに来場者が加わったりすることで交流が促進された。外国人による日本語スピーチや、外国人生徒が増えている夜間中学ドキュメンタリー上映にも多くの来場者があった。 ・豊田ふれあいフェスタに参加し、外国料理販売とゲーム、パネル展示、やさしい日本語クイズ、多言語絵本読み聞かせで日本人市民と外国人市民が交流をした。 ・イヤーエンドパーティーを開催、140人(日本、ブラジル、ペルー、フィリピン、ベトナム、タイ、インドネシア、中国、韓国、台湾)の人たちが参加し、各国の料理を持ち寄り、ヨーヨー、手品、ビンゴゲーム、ダンス、合唱等さまざまなレクリエーションを通して交流を深めた。	○	・磐田・袋井・掛川インターナショナルフェアの開催 ・多文化パーベキュー交流会の開催 ・イヤーエンドパーティーの開催	・近隣の袋井市、掛川市の国際交流団体と共同で、磐田・袋井・掛川インターナショナルフェアをららぽーと磐田で開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により規模や形態を大きく変えて、展示とPR動画の放映のみになったが、開催までの準備において協力団体等と交流ができ、フェア当日も、子ども絵画展やジュニアオールメディア写真展、JICA写真展などを通して、フェアを目的に来場した人やフェアが目的ではなかったけれど立ち寄ってくれた来場者と交流できた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、多文化パーベキュー交流会とイヤーエンドパーティーは実施できなかった。 ・イヤーエンドパーティーに代えて、「みんなで楽しもう!多文化チャンネル」をオンラインで開催した。会員や日本語教室学習者とその家族、多文化交流センターがオンラインでつながり、様々なプログラムを楽しんで交流した。	○
	23	多文化交流センターを拠点とした交流イベントの開催						地域づくり応援課	多文化交流センターを活用し地域と多文化をつなぐ交流イベントの開催	毎月第3日曜日に東新横町(地域の朝市)に参加交流している。(毎月100人) ※多文化交流センターを活用し、地域の方と一緒に『なかよし会』を3月15日に開催予定であったが、コロナウイルスへの対応により中止となった。	○	多文化交流センターを活用し地域と多文化をつなぐ交流イベントの開催	・コロナによる影響で各種イベントが中止となってしまった。 ・次年度以後、イベントのオンライン対応等も検討したい。	×	
24	各交流センターでの多文化共生関連事業への支援	継続	→	→	→	→	→	地域づくり応援課	各交流センターで多文化共生を取り入れた講座の開催		○	各交流センターで多文化共生を取り入れた講座の開催	・今年度コロナ対応によりセンター講座の実施がほとんど出来なかった ・南御厨交流センターで開催された日本語教室については、会場や募集において交流センターからの協力があつた。	○	
								(一社) 国際交流協会	・日本語教室の実施(竜洋交流センター、西貝交流センター) ・各交流センターからの依頼に応じて、外国料理講座等の外国人講師を紹介する。	・日本語教室の毎月開催(竜洋交流センター、西貝交流センター) ・フェスタ富岡・加茂夏祭り(富岡交流センター)、竜洋交流センター夏まつりに外国人とともに参加。浴衣を着たり外国料理の販売等で地域行事を盛りあげた。 ・西貝日本語教室で西貝地区文化祭に参加。ステージで日本語スピーチと歌、模擬店で各国料理の販売や日用品バザー、折り紙作品展示を行い、日本人市民と外国人学習者の交流を促進した。 ・竜洋交流センターで開催した「異文化交流会と防災講座」の参加者募集に協力した。	○	・日本語教室の実施(竜洋交流センター、西貝交流センター) ・各交流センターからの依頼に応じて、外国料理講座等の外国人講師を紹介する。	・日本語教室を実施した(竜洋交流センター、西貝交流センター) ・新型コロナウイルス感染症の影響により、各交流センターのイベントが中止となり、イベントへの参加ができなかった。	×	

(5) 協働の推進：外国人市民の地域の構成員としての自覚を促し、その能力を地域社会で発揮できるよう環境整備に努めます。

具体的な施策	No.	内容、方向性など	← 計画対象年度 →					取り組み主体 関係課、団体等	2019年度の取り組み計画	2019年度の取り組み結果	達成度	2020年度の取り組み計画	2020年度の取り組み結果	達成度
			2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度							
⑪外国人市民の地域活動への参加促進	25	自治会活動への参加促進のための啓発						地域づくり応援課	外国人情報窓口時の転入オリエンテーションや個別相談の際、自治会参加促進のための説明資料配布と説明をする。	外国人情報窓口時の転入オリエンテーションや個別相談の際、自治会参加促進のための説明資料配布と説明を実施。	○	外国人情報窓口時の転入オリエンテーションや個別相談の際、自治会参加促進のための説明資料配布と説明をする。	外国人情報窓口時の転入オリエンテーションや個別相談の際、自治会参加促進のための説明資料配布と説明を実施。	○
	26	外国人市民の審議会等への登用						地域づくり応援課	多文化共生推進協議会への在留外国人の登用	多文化推進協議会委員に在留外国人を任用	○	多文化共生推進協議会への在留外国人の登用	多文化推進協議会委員に在留外国人を任用	○
⑫外国人市民と地域をつなぐキーパーソン、組織の育成・支援	27	(一社) 磐田国際交流協会と連携した外国人市民による自主的な活動への支援						(一社) 国際交流協会	・多言語絵本よみきかせで外国人が読み手として運営に参画 ・外国人が多文化防災の会のリーダーやメンバーとなって、外国人への防災啓発や、日本人への多文化防災の啓発を行う。	・多言語絵本よみきかせで外国人が読み手として運営に参画した ・外国人が多文化防災の会のリーダーやメンバーとなって、外国人への防災啓発や、日本人への多文化防災の啓発を行った。	○	・多言語絵本よみきかせで外国人が読み手として運営に参画 ・外国人が多文化防災の会のリーダーやメンバーとなって、外国人への防災啓発や、日本人への多文化防災の啓発を行う。	・多言語絵本よみきかせで外国人が読み手として運営に参画した ・外国人が多文化防災の会のリーダーやメンバーとなって、外国人への防災啓発や、日本人への多文化防災の啓発を行った。 ・オブジェチーボ・チアホーザ存続のためのクラウドファンディングへの協力を会員へのメールやFacebookで呼びかける等の支援を行った。 ・カトリック磐田教会で日系の方や外国人市民が行っている食糧支援への協力を会員へのメールやFacebookで呼びかける等の支援や、食料を集め配布日に教会へ持ち込む支援を行った。	○
	28	外国人市民と地域をつなぐ体制づくり						地域づくり応援課	外国人市民に向けた自治会文書等の翻訳	外国人情報窓口において、自治会からの文書等を地域の外国人市民向けに翻訳した。令和元年10月からは6言語（ポルトガル語・英語・タガログ語・スペイン語・タイ語・ベトナム語）の対応。	○	外国人市民に向けた自治会文書等の翻訳	外国人情報窓口において、自治会からの文書等を地域の外国人市民向けに翻訳した。 6言語（ポルトガル語・英語・タガログ語・スペイン語・タイ語・ベトナム語）の対応。	○
								(一社) 国際交流協会	・地域つながり方デザイン講座を開催し、地域と外国人市民を繋ぐ人材を養成する。	・日本語ボランティア養成講座と地域つながり方デザイン講座を開催し、地域と外国人市民を繋ぐ人材を養成した。	○	・日本語ボランティア養成講座や日本語支援者スキルアップ研修を開催し、地域と外国人市民を繋ぐ人材を養成する。	・日本語ボランティア養成講座や日本語支援者スキルアップ研修を開催し、地域と外国人市民を繋ぐ人材を養成した。	○

資料 2 - 5

3 ともに未来を築くづくり

(6) 子どもの教育環境の充実：次世代を担う子どもたちが、国籍を問わず十分な教育を受けられるよう、教育環境の整備に努めます。

具体的な施策	No.	内容、方向性など	← 計画対象年度 →						取り組み主体 関係課、団体等	2019年度の取り組み計画	2019年度の取り組み結果	達成度	2020年度の取り組み計画	2020年度の取り組み結果	達成度
			2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度							
⑬初期支援及び継続的な支援が必要な児童生徒への支援体制の充実	29	児童生徒数の増加・多国籍化、広域化に対応した体制の整備	継続	→	→	→	→	→	学校教育課	外国人児童生徒相談員・支援員、JSLサポーターの配置を適時調整し、日本語習得が十分でない児童生徒を支援できるようにする。	学校配置を工夫するとともに、初期支援教室NIJIへの配置も工夫し、必要な子に対し支援を行うことができた。	○	日本語習得が十分でない児童生徒の個に寄り添った支援ができるよう、相談員・支援員・JSLサポーターの配置を弾力的に行う。	学校配置を工夫するとともに、初期支援教室NIJIへの配置も工夫し、必要な子に対し支援を行うことができた。	○
									(一社) 国際交流協会	・学校教育課から委託を受け、外国人児童生徒の初期支援及び学習支援（JSLサポート事業）を行う。 ・JSLサポーター養成講座を実施する。 ・教育委員会から委託を受け、放課後児童クラブでの外国人児童の生活支援と、保護者に対する通訳を行う。	・学校教育課から委託を受け、外国人児童生徒の初期支援及び学習支援（JSLサポート事業）を行った。 ・JSLサポーター養成講座を実施した。 ・教育委員会から委託を受け、放課後児童クラブでの外国人児童の生活支援と、保護者に対する通訳を行った。	○	・学校教育課から委託を受け、外国人児童生徒等の初期支援及び学習支援（JSLサポート事業）を行った。 ・教育委員会から委託を受け、放課後児童クラブでの外国人児童の生活支援と、保護者に対する通訳を行った。 ・教育委員会から委託を受け、放課後児童クラブでの外国人児童の生活支援と、保護者に対する通訳を行う。	・学校教育課から委託を受け、外国人児童生徒等の初期支援及び学習支援（JSLサポート事業）を行った。 ・教育委員会から委託を受け、放課後児童クラブでの外国人児童の生活支援と、保護者に対する通訳を行った。 ・教育委員会の担当者、静岡教育事務所日本語支援コーディネーターと、よりよい支援体制の整備に向けて情報交換を行った。	○
⑭外国人家庭（保護者）への働きかけ	30	学校でキーパーソンとなる保護者の発掘・支援	継続	→	→	→	→	→	学校教育課	外国人児童生徒の保護者が教育への理解を深められるように、懇談会やPTA総会の通訳を行ったり、面談の機会を確実に確保したりする。	面談の機会を充実させるとともに、困り感をもった方に対し、個別に相談をし、解決していくことができた。	○	外国人児童生徒の保護者が、学校教育への理解を深められるよう、懇談会や面談の際には、相談員を派遣する。	面談の機会を充実させるとともに、困り感をもった方に対し、個別に相談をし、解決していくことができた。	○
			継続	→	→	→	→	→	(一社) 国際交流協会	外国人保護者が読み手として活躍する多言語絵本読み聞かせを年数回実施し、子育て中の保護者のエンパワーメントを行う。	市民活動パネル展、豊田ふれあいフェスタ、いわたインターナショナルフェア2020において、「多言語絵本読み聞かせ」を実施し、外国人保護者が読み手として活躍した。	○	外国人保護者が読み手として活躍する多言語絵本読み聞かせを年数回実施し、子育て中の保護者のエンパワーメントを行う。	新型コロナウイルス感染症の影響により多くのイベントを中止したが、オンラインで開催した「みんなで楽しもう！多文化チャンネルリレー」の中で、にこっと職員と日本語教室のスタッフの外国人市民の協力で多言語絵本読み聞かせを実施した。子育て中の保護者は聞き手として参加したが、読み手として参加してもらうことはできなかった。	○
	31	保護者同士のコミュニケーションの促進のための仕組みづくり	継続	→	→	→	→	→	学校教育課	外国人児童生徒の保護者による懇談会の通訳を行う。懇談会に外国人児童生徒相談員が加わり、相互理解を深める。	懇談会を開催するとともに、プレスクールを実施し、児童や保護者の安心感を高めることができた。	○	外国人児童生徒の保護者による懇談会やプレスクール等を行うことで、保護者同士の交流ができる場を設ける。	懇談会を開催するとともに、プレスクールを実施し、児童や保護者の安心感を高めることができた。	○
継続			→	→	→	→	→	(一社) 国際交流協会							
⑮定住化、永住化に対応した高校・大学等への進学支援	32	多文化交流センター等での学習支援の充実							地域づくり応援課	多文化交流センターで行っている学習支援を国際交流協会と連携し、他の交流センターを活用し学習支援の充実を図る。	継続的に多文化交流センターで学習支援を実施した。今後他の交流センターで実施に向けて検討する。	○	多文化交流センターで行っている学習支援を国際交流協会と連携し、他の交流センターを活用し学習支援の充実を図る。	継続的に多文化交流センターで学習支援を実施した。今後他の交流センターで実施に向けて検討する。	○
									(一社) 国際交流協会	日本語教室子どもクラスにおける高校進学支援	多文化交流センター主催の先輩の話を聞く会でポルトガル語の通訳をした。	日本語教室子どもクラスにおける高校進学支援	ワークピア教室の子どもクラスにおいて磐田南高定時制を受験する生徒の支援を行い、合格に貢献した。	○	
	33	日本の教育・進学制度に関する啓発							地域づくり応援課	3歳児健診で日本と外国の学校制度の違いを説明	3歳児健診時に学校制度の違いを保護者に説明	○	3歳児健診で日本と外国の学校制度の違いを説明	・3歳児健診時に学校制度の違いを保護者に説明 ・Facebookを利用した啓発情報の発信	○
								(一社) 国際交流協会		Facebookを利用した啓発情報の発信を行う。	○	Facebookを利用した啓発情報の発信を行った。	○		
⑯子どもの教育に関わる関係機関の連携強化	34	子どもの教育に関わる関係機関のネットワーク化							地域づくり応援課	外国人児童生徒学習支援連絡会及び小学校、中学校、多文化交流センター連絡会を実施し、関係機関との情報意見交換会を実施する。現状課題と解決策の議論検討を行う。	小学校、中学校、多文化交流センター連絡会（全3回）を実施、児童生徒の様子や保護者とのコミュニケーションの現状を情報共有した。	○	外国人児童生徒学習支援連絡会及び小学校、中学校、多文化交流センター連絡会を実施し、関係機関との情報意見交換会を実施する。現状課題と解決策の議論検討を行う。	・多文化共生社会推進協議会にて、教育体制に関して、多文化交流センター職員、学校教育課職員、教員、多文化共生事業担当者、自治会、企業、様々な立場の目線で協議を行った。	○
									(一社) 国際交流協会	・学校教育課主催で、JSLサポーターを配置している学校との連絡会を実施 ・教育委員会主催で、JSLサポーターを配置している放課後児童クラブとの連絡会を実施	・学校教育課主催で、JSLサポーターを配置している学校との連絡会を実施した。 ・教育委員会主催で、JSLサポーターを配置している放課後児童クラブとの連絡会を実施した。	○	・学校教育課主催で、JSLサポーターを配置している学校との連絡会を実施した。 ・教育委員会主催で、JSLサポーターを配置している放課後児童クラブとの連絡会を実施した。 ・市教育委員会指導主事、静岡教育事務所日本語支援コーディネーターと、磐田市の外国につながる子どもによりよい支援について情報共有を行った。 ・にこっとの職員に多言語絵本読み聞かせの読み手として協力してもらったり、制服リユースのことについて情報共有したりすることで、関係強化につながった。	○	

(7) 人材育成と活躍の場の提供：外国人の若者たちが多様な将来像を描けるよう、置かれている状況に配慮した支援に努めます。

具体的な施策	No.	内容、方向性など	← プラン対象年度 →						取り組み主体 関係課、団体等	2019年度の取り組み計画	2019年度の取り組み結果	達成度	2020年度の取り組み計画	2020年度の取り組み結果	達成度
			2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度							
①若者たちのロールモデルとなる外国人市民の支援と活躍の場の提供	35	ロールモデルとなる外国人の紹介と活躍する場の提供							(一社) 国際交流協会	・企業や病院、高校、地域からの依頼に対し、日本で育った外国ルーツの若者を通訳者として積極的に紹介し、活躍してもらう。	・ブラジルルーツの若者を静岡県経済産業部就業支援局に紹介し、「企業で活躍する定住外国人ロールモデル」に掲載された。 ・県知事の移動知事室が来庁した際には、ブラジルルーツの若者が「平太さんと語ろう」に登壇し、多文化防災の会の活動を紹介した。	○	・企業や病院、高校、地域からの依頼に対し、日本で育った外国ルーツの若者を通訳者として積極的に紹介し、活躍してもらう。	・放課後児童クラブからの要請に対し、ブラジル出身の若者を通訳として紹介した。 ・日本語教室でブラジルやフィリピン出身者にコーディネーター・指導者、外国人住民コーディネーターとして活躍してもらった。	○
	36	多文化交流センターを拠点とした若い世代の人材育成と支援	継続	→	→	→	→	→	地域づくり応援課	多文化交流センターで「先輩の話を聞く会」を実施する。進学及び就職に向けた情報提供や先輩の体験談を聞く機会を設け将来設計への支援を行う。	多文化交流センターで「先輩の話を聞く会」を開催し、日本で安定して働くことについて考える機会を作った。 ※多文化交流センターで開催する『なかよし会』で、「高校進学に向けて先輩の話を聞く会」を企画したが、コロナウイルス対応により中止した。	○	多文化交流センターで「先輩の話を聞く会」を実施する。進学及び就職に向けた情報提供や先輩の体験談を聞く機会を設け将来設計への支援を行う。	・日本語教室事業にて、地域の在留外国人の方に母語支援者をお願いした。 ※多文化交流センターで開催する『なかよし会』で、「高校進学に向けて先輩の話を聞く会」を企画したが、コロナウイルス予防のため中止となった。	×
			継続	→	→	→	→	→	(一社) 国際交流協会	日本で育った外国ルーツの若者が日本語教室で通訳や日本語ボランティアとして活動	日本で育った外国ルーツの若者が日本語教室で通訳や日本語ボランティアとして活動した。	○	日本で育った外国ルーツの若者が日本語教室で通訳や日本語ボランティアとして活動	日本で育った外国ルーツの若者が日本語教室でコーディネーター、通訳や日本語ボランティアとして活動した。	○
⑧学齢期を過ぎた外国人の支援	37	日本語教室への支援		検討	実施	⇒	⇒	⇒	(一社) 国際交流協会	市内5か所で日本語教室を開催	市内5か所で日本語教室を開催した。	○	市内4か所で日本語教室を開催	・市内4か所で日本語教室を開催した。 ・磐田市主催の「はじめての日本語教室」に、コーディネーターや指導者、母語支援者などを紹介し協力した。	○
	38	大人の学び直し支援							(一社) 国際交流協会	日本語教室の子どもクラスでやレベル別クラスで、漢字や文法、教科学習などの学び直しを支援する。	日本語教室の子どもクラスやレベル別クラスで、漢字や文法、教科学習などの学び直しを支援した。	○	日本語教室の子どもクラスでやレベル別クラスで、漢字や文法、教科学習などの学び直しを支援する。	日本語教室の子どもクラスでやレベル別クラスで、漢字や文法、教科学習などの学び直しを支援した。	○

資料 2 - 7

成果指標の一覧

3つの柱	成果指標	← プラン対象年度 →					現状	2021年度目標値	2020年度の取り組み結果	達成度
		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度				
1 安心して暮らせる環境づくり	外国語、やさしい日本語による情報提供の件数（ポルトガル語版広報発行部数、ホットライン件数、翻訳件数等）	継続	→	→	→	→	36,163件（2015（H27）年度実績値）	38,000件	情報提供件数 合計 36924件 内訳 ポルトガル広報 36,000部 ホットライン件数 117件（3月末） ホットライン登録数504件（3月末） 翻訳件数 303件（3月末）	×
	地域防災訓練に参加する外国人の人数						325人（2016（H28）年度実績値）	400人	令和2年度実績（9月0人、12月0人、合計0人）	×
2 多文化共生の地域づくり	市民意識調査の「地域で暮らす日本人への親しみ」の項目での“とてもよく感じる”、“やや感じる”との回答の合計	継続	→	→	→	→	57%（2015（H27）年度市民意識調査）	60%	91%R2市民意識調査結果（2020年実施） ※今回調査は、外国人国籍をベトナム、タイ、インドネシアに限定して調査を実施した。	○
	市民意識調査の「地域で暮らす外国人への親しみ」の項目での“親しみを感ずる”、“どちらかといえば感じる”との回答の合計						57%（2015（H27）年度市民意識調査）	50%	R2市民意識調査実施結果（2020年実施） 成果指標に掲げた項目を調査から外しており、結果が出なかった。	×
3 ともに未来を築く人づくり	初期支援教室で支援を受けた児童生徒の適応状況（学校における3か月の出席率）	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	95%（2015（H27）年度実績値）	97%	令和2年度 実績 95%	×
	多文化交流センター利用者の高校進学率						100%（2015（H27）年度実績値）	100%	令和2年度、利用者4人全員高校進学。	○

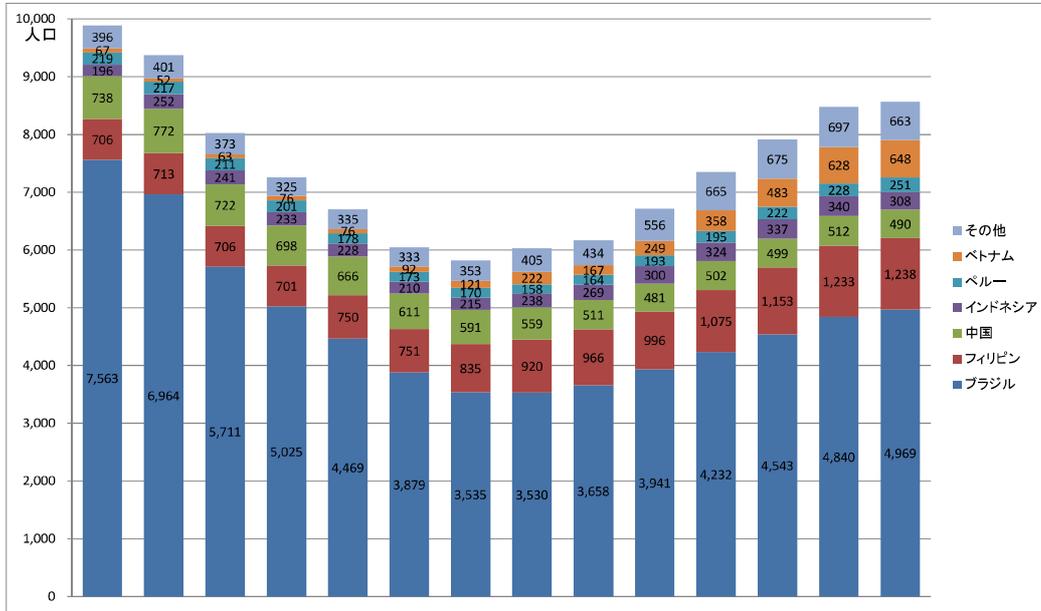
資料 2 - 8

# 資料 3-1

国籍別人口推移

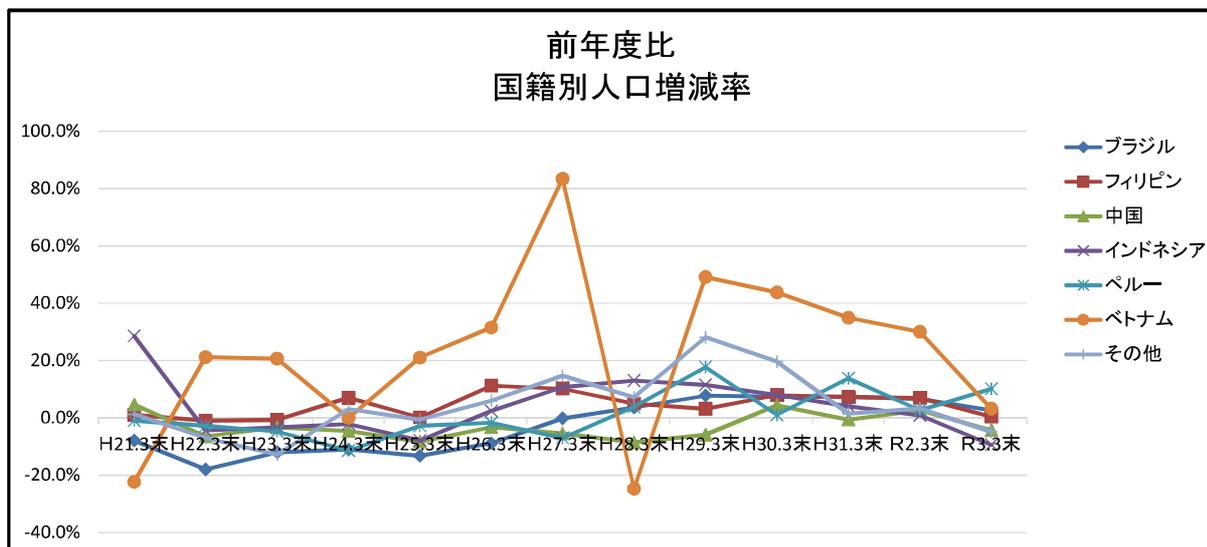
国	H20.3末	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H24.3末	H25.3末	H26.3末	H27.3末	H28.3末	H29.3末	H30.3末	H31.3末	R2.3末	R3.3末
項目	人口	人口	人口											
ブラジル	7,563	6,964	5,711	5,025	4,469	3,879	3,535	3,530	3,658	3,941	4,232	4,543	4,840	4,969
フィリピン	706	713	706	701	750	751	835	920	966	996	1,075	1,153	1,233	1,238
中国	738	772	722	698	666	611	591	559	511	481	502	499	512	490
インドネシア	196	252	241	233	228	210	215	238	269	300	324	337	340	308
ペルー	219	217	211	201	178	173	170	158	164	193	195	222	228	251
ベトナム	67	52	63	76	76	92	121	222	167	249	358	483	628	648
その他	396	401	373	325	335	333	353	405	434	556	665	675	697	663
年度末合計	9,885	9,371	8,027	7,259	6,702	6,049	5,820	6,032	6,169	6,716	7,351	7,912	8,478	8,567

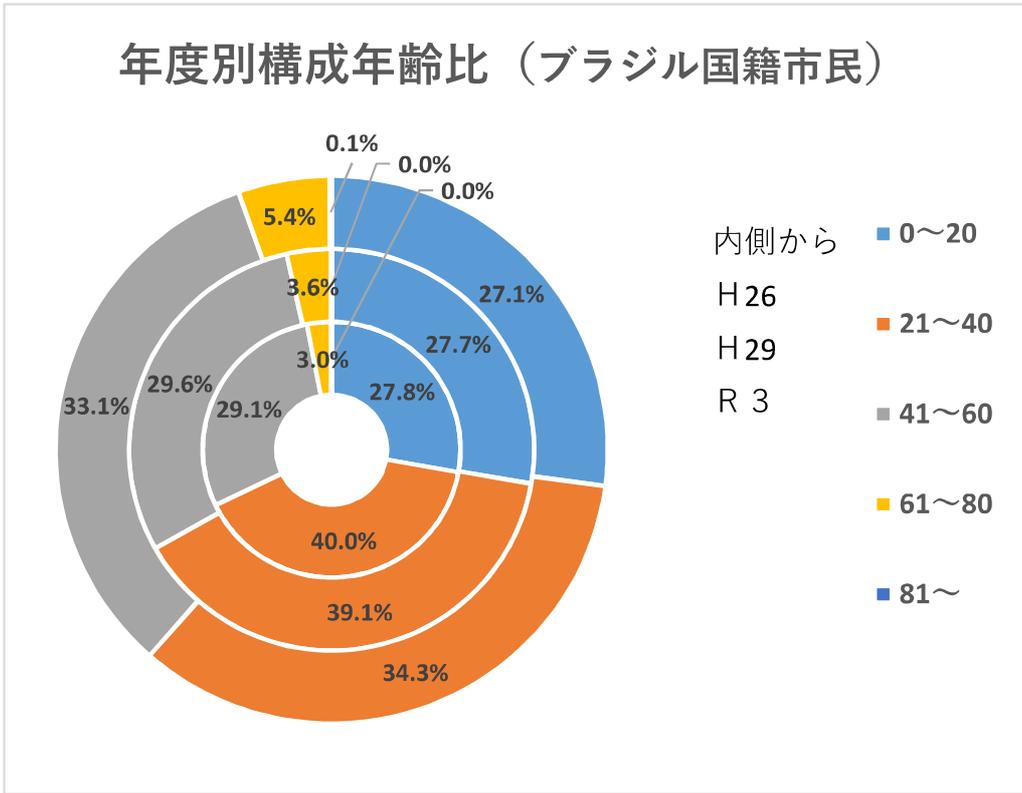
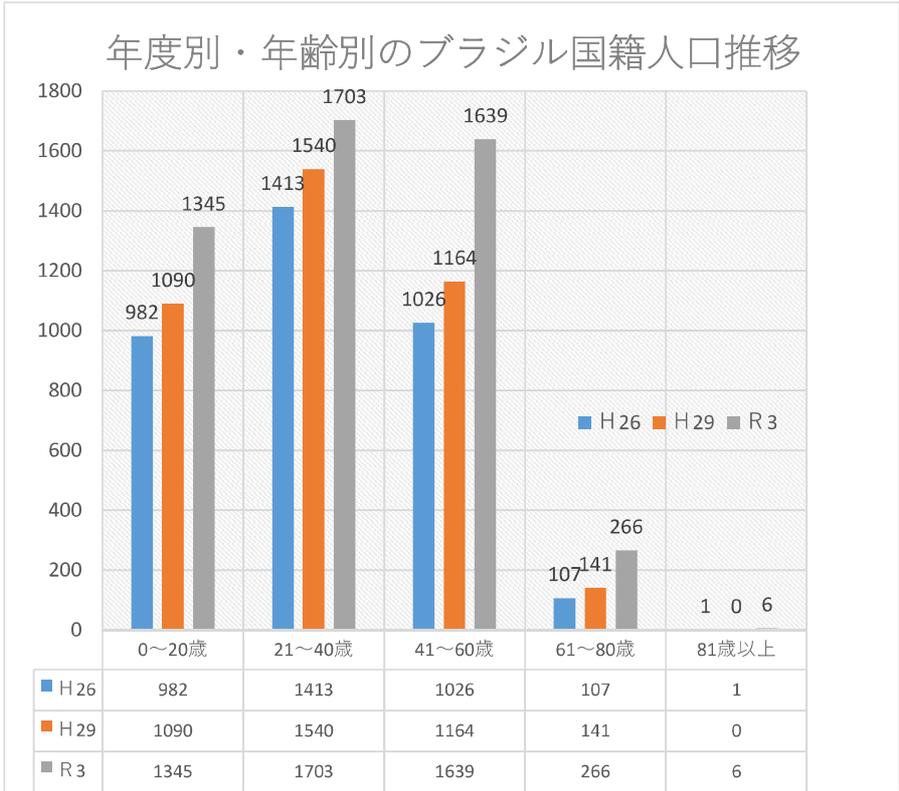
※ 各年の増減率は、前年度比 ※少数点以下第二位以下切り捨て

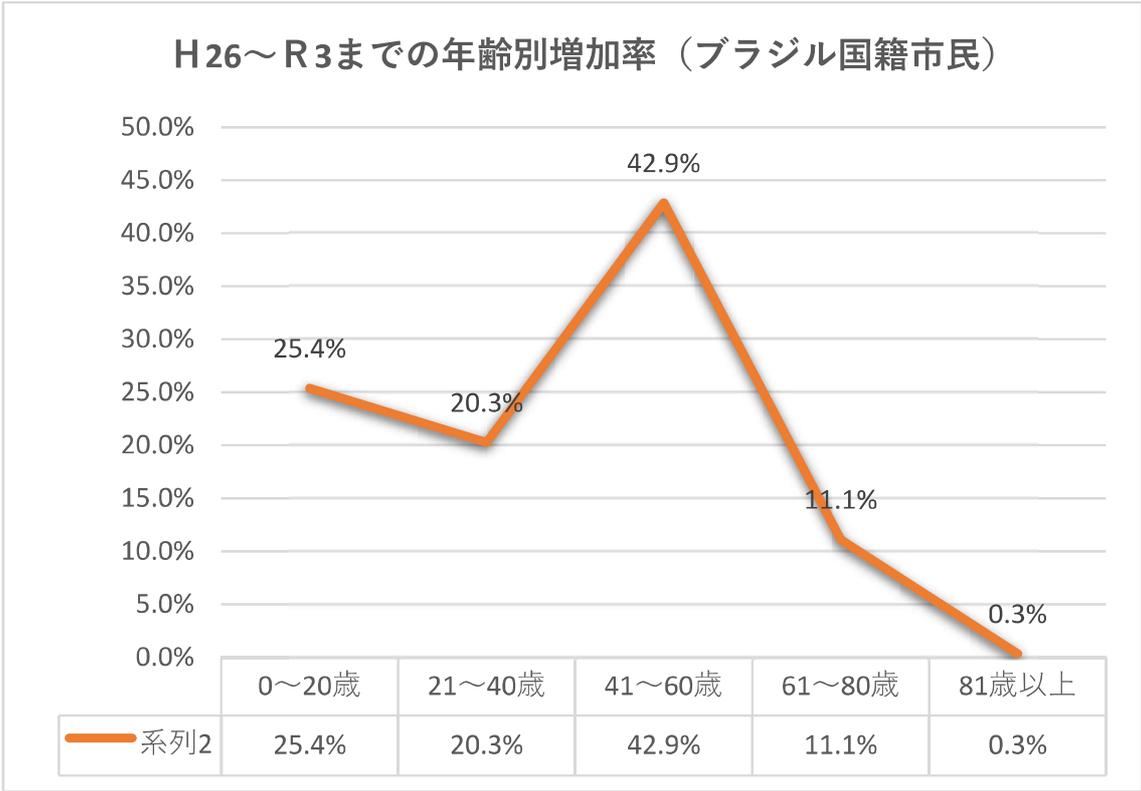


前年度比 国籍別人口増減率

	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H24.3末	H25.3末	H26.3末	H27.3末	H28.3末	H29.3末	H30.3末	H31.3末	R2.3末	R3.3末
ブラジル	-7.9%	-18.0%	-12.0%	-11.1%	-13.2%	-8.9%	-0.1%	3.6%	7.7%	7.4%	7.3%	6.5%	2.7%
フィリピン	1.0%	-1.0%	-0.7%	7.0%	0.1%	11.2%	10.2%	5.0%	3.1%	7.9%	7.3%	6.9%	0.4%
中国	4.6%	-6.5%	-3.3%	-4.6%	-8.3%	-3.3%	-5.4%	-8.6%	-5.9%	4.4%	-0.6%	2.6%	-4.3%
インドネシア	28.6%	-4.4%	-3.3%	-2.1%	-7.9%	2.4%	10.7%	13.0%	11.5%	8.0%	4.0%	0.9%	-9.4%
ペルー	-0.9%	-2.8%	-4.7%	-11.4%	-2.8%	-1.7%	-7.1%	3.8%	17.7%	1.0%	13.8%	2.7%	10.1%
ベトナム	-22.4%	21.2%	20.6%	0.0%	21.1%	31.5%	83.5%	-24.8%	49.1%	43.8%	34.9%	30.0%	3.2%
その他	1.3%	-7.0%	-12.9%	3.1%	-0.6%	6.0%	14.7%	7.2%	28.1%	19.6%	1.5%	3.3%	-4.9%
年度末合計	-5.2%	-14.3%	-9.6%	-7.7%	-9.7%	-3.8%	3.6%	2.3%	8.9%	9.5%	7.6%	7.2%	1.0%







国籍別外国人の人口 令和3年5月末現在

	国籍	人数	構成比	前月比
1	ブラジル	4973	58.3%	8
2	フィリピン	1253	14.7%	15
3	ベトナム	616	7.2%	-3
4	中国	486	5.7%	-7
5	インドネシア	299	3.5%	-3
6	ペルー	246	2.9%	-5
7	タイ	159	1.9%	-5
8	韓国	109	1.3%	-1
9	スリランカ	79	0.9%	1
10	パキスタン	46	0.5%	1
	その他	269	3.2%	-1
	合計	8,535	100.0%	0



第4次 磐田市多文化共生推進プランの骨組み

基本理念

誰一人取り残さない。  
歩み寄り、助け合うことができる多文化共生社会へ

取り組むべき柱

多文化共生の地域づくり

多様な言語への対応と日本語学習機会の充実

安心して暮らせる環境づくり

ともに守っていくIWATAの未来

基本施策

相互理解の促進

協働の推進

ICTを活用した  
情報提供体制の整備

日本語教育の推進

危機管理意識の啓発

職場環境の整備

子どもの教育環境の整備

外国人市民の高齢化対策

キーワード

- ① 生活オリエンテーション
- ② 地域交流
- ③ 意識啓発
- ④ 差別・偏見の解消
- ⑤ 情報発信
- ⑥ やさしい日本語の普及

- ① 地域活動への参加
- ② 自治会加入の促進
- ③ キーパーソンの育成
- ④ 外国人材の登用
- ⑤ 地域内連携

- ① SNSの活用
- ② 相談窓口
- ③ 情報の共有
- ④ 多言語対応
- ⑤ オンライン化

- ① 日本語教室
- ② 対話交流型
- ③ 地域交流
- ④ スタッフ養成
- ⑤ 学習意識啓発

- ① 防災意識啓発
- ② 感染症対策
- ③ 地域防災への参加
- ④ 居住把握
- ⑤ 情報伝達

- ① 就労支援
- ② 受入企業
- ③ 実態調査
- ④ 日本語習得支援
- ⑤ 情報発信

- ① 外国人学校
- ② 子育て支援
- ③ 初期支援体制
- ④ 関係機関の連携強化
- ⑤ 進学支援・キャリア教育
- ⑥ 不就学児童対応

- ① 年金
- ② 孤独死
- ③ 介護
- ④ ライフプラン設計
- ⑤ 医療・保険サービス



## 4 協議事項 ワークショップ（流れ）

- 1 4つの柱について、現状を踏まえ委員が思う自由な意見を出していただき、皆様それぞれの視点から意見交換してください。  
※1つの柱につき、意見交換を行う時間は、15分です。
  - 1 『多文化共生の地域づくり』
    - ① 相互理解の促進
    - ② 協働の推進
  - 2 『多様な言語への対応と日本語学習機会の充実』
    - ① ICT を活用した情報提供体制の整備
    - ② 日本語教育の推進
  - 3 『安心して暮らせる環境づくり』
    - ① 危機管理意識の啓発
    - ② 職場環境の整備
  - 4 『ともに守っていく IWATA の未来』
    - ① 子どもの教育環境の整備
    - ① 外国人市民の高齢化対策
- 2 4グループに分かれて、各テーマを15分でローテーションして合計4回の意見交換をします。（グループ分けは2ページ目のとおり）
- 3 1回目から4回目まで、各回に書記が内容をまとめます。  
 2回目以降は、前回グループの意見を参考に議論をします。  
 4回目は、3回目までの結果を基に、意見のまとめを行います。  
 ※ローテーション毎に、前回までの意見交換内容をファシリテーターが皆様にお伝えします。
- 4 ファシリテーター役の職員が意見をまとめ発表（各テーマ3分）
- 5 総括（10分）

ワークショップグループ分け

参考資料-2

	氏名	かな	所属等	グループ	1回目のテーマ
1	玉田 文江	たまだ ふみえ	自治会連合会	A	1 多文化共生の 地域づくり
2	平野 利直	ひらの としなお	平野ビニール工業㈱	A	
3	小沼 裕樹	こぬま ひろき	神明中学校	A	
4	藤田 允	ふじた まこと	自治会連合会	B	2 多様な言語への対応と 日本語学習機会の充実
5	相川 アンジェラ	あいかわ あんじえら	浜松磐田信用金庫	B	
6	江間 啓之	えま けいじ	磐田南高校(定時制)	B	
7	高塚 勝久	たかつか かつひさ	磐田国際交流協会	C	3 安心して暮らせる 環境づくり
8	田中 琢間	たなか たくもん	在住外国人(ブラジル)	C	
9	松尾 真里	まつお まり	磐田市立東部幼稚園	C	
10	渡邊 カルロス	わたなべ かるろす	(株)ORJ	D	4 ともに守っていく IWATAの未来
11	増山 尚俊	ますやま なおとし	東部小学校	D	
12	杉田 友司	すぎた ともじ	多文化交流センター	D	
13	清水 みゆき	しみず みゆき	在留外国人(ブラジル)		
14	山田 クリスティナ	やまだ くりすていな	在留外国人(フィリピン)		
15	山田 裕美	やまだ ゆみ	多文化交流センター		
16	杉田 雅英	すぎた まさひで	地域づくり応援課	Aファシリテータ	柱1 (固定)
17	藤 大地	とう だいち	地域づくり応援課	A書記	柱1 (固定)
18	森 優也	もり ゆうや	地域づくり応援課	Bファシリテーター	柱2 (固定)
19	大橋 あゆみ	おおはし あゆみ	地域づくり応援課	B書記	柱2 (固定)
20	伊藤 豪紀	いとう ひでのり	地域づくり応援課	Cファシリテーター	柱3 (固定)
21	川合 紗也華	かわい さやか	地域づくり応援課	C書記	柱3 (固定)
22	勝又 千夏	かつまた ちなつ	学校教育課	Dファシリテーター	柱4 (固定)
23	坪井 信	つばい しん	地域づくり応援課	D書記	柱4 (固定)
会長	池上 重弘	いけがみ しげひろ	静岡文化芸術大学	全体総括	全体総括

A×3人+サポート2人	B×3人+サポート2人	C×3人+サポート2人	D×3人+サポート2人
-------------	-------------	-------------	-------------

# ワークショップ配置図

参考資料 - 3

